

秋田地域における留学生と日本人学生の 交流の実態及び価値観の比較研究

宮本 律子

A survey of the cross-cultural interactions and sense of values among international students and Japanese students in the Akita area.

Ritsuko MIYAMOTO

The author conducted an investigation of how international students and Japanese students were interacting at higher educational institutions in the Akita area. The purpose was to see what the causes if any of cultural or social conflicts among them were. The results show that while international students are trying hard to make friends with their counterparts and the Japanese consider it necessary to make efforts themselves, the Japanese side are not succeeding in doing it. One of the causes of these communication gaps seems to stem from the different senses of values between the two sides.

はじめに

国際化という言葉が流行語ようになって久しい。近年あらゆる分野において、国と国の境界を越えた相互方向の物や人、情報の往来が活発になり、いわゆるボーダレスの時代になっている。既に国境という言葉さえ、その意味が薄れつつあるのかもしれない。日本人が日本の歴史と社会や文化に対して抱いている「単一民族国家の神話」は既に内側から崩壊しつつある。一つには、経済力の増大による外国人労働者の増加。一つには、いわゆる国際結婚や中国からの帰国による、日本語を母語としない住民の増加。これには、帰国子女と呼ばれる人たちも含まれる場合がある。そして、国際交流といえば筆頭に挙げられる留学生数の増加がある。

21世紀初頭には留学生を10万人にまで増やすという国の計画により、留学生の数は激増しているが、それに伴う宿舎や奨学金などの物理的環境の整備の不備が指摘され、徐々に、留学生センターや学生寮などが設置されてきている。ところが、留学生を取り巻く人的環境がどうなっているのかについての研究はまだ立ち遅れている。彼らの所期の目的である学習や研究への意欲が刺激され、いい思い出もたくさんできて、日本に留学してよかったと心から思えるような留学生生活を送れるようにするには、どうすればよいかを実証的かつ実践的に研究することが必要である。

本研究は、以上のような認識のもとに、実践的研究の第一段階として、秋田大学を中心に、秋田市周辺の外国人留学生が在学する高等教育機関において、留学生と日本人学生がどの程度交流し、何が問題になっているのかを調べ、問題発生背景には価値観の相違という異文化適応の基本的な部分が含まれるのかを、アンケート調査によって探ろうとするものである。

1. 調査の概要

(1) 方法・時期

予備調査として、横田(1991)などを参考に質問項目を決め、1993年度6月に今回より対象人数を限ってアンケートを実施した。その結果を踏まえて、新たに質問項目などを足し、最終調査票を作製した。1994年度日本事情Ⅰの受講生43名(留学生7名、日本人学生36名)に「日本語のアンケートが読めるくらいの日本語力がある留学生2名以上および日本人学生10名以上に調査票を直接渡して書いてもらう」よう指示して、実施した。調査は、1994年7月10日から8月31日にかけて行われた。

(2) 対 象

秋田周辺の大学、短大、高専、アメリカの大学の分校などに所属する学生を調査対象とした。総計475名(留学生80名、日本人学生395名)から回答を得た。

(3) 内 容

回答は無記名とした。まず、被調査者の属性に関する項目では、性別、大学名、学部と学年(以上対象者全員)、国籍、来日時期(留学生のみ)をあげた。次に、大きく分けて、交流に関してと価値観に関しての二つの項目群を設けた。交流項目としては、留学生または日本人の知り合いの有無、そのきっかけ、親しくなりたいか、親しくなれない原因は何か、親しくなる方法は何か、の項目を設け、留学生には、「もう一度留学するとしたらどこに行きたいか」と問い、現在の留学に対する満足度を調べた。価値観の項目では、現在の生活の充実感、何を大切に思っているか、どのような生き方に共感を覚えるか、そして、現在注目されているボランティア活動に対する関心度もきいた。

調査項目は留学生、日本人学生ほぼ同じであるが、内容によって表現が多少変わっているところもある。調査用紙は留学生対象のものを末尾に添付してある。

2. 調査結果と考察

調査の結果は、回答の実数と相対度数(%)で示してある。また、答えを記入していない場合(無回答)も、なんらかの意志表示である可能性もあるので、集計の対象に含まれている。

(1) 回 収

総計478名に配布し、そのうち475名(留学生80名、日本人学生395名)から回答を得た。回収率は99.4%だった(表1)。

表1 調査の結果の集計

	留 学 生	日本人学生	合 計
用紙配布数	80	398	478
回 答 数	80	395	475
回 収 率	100%	99.4%	99.4%

表 2 調査対象者

秋田市及びその周辺の高高等教育機関に在学している留学生と日本人学生 475名			
留 学 生：80名		日本人学生：395名	
*所属学校別内訳		*所属学校別内訳	
秋 田 大 学	57名	秋 田 大 学	371名
ミネソタ州立大学機構秋田校	21名	聖霊女子短期大学	14名
秋田経済法科大学	2名	秋田経済法科大学	3名
*国籍別内訳		聖 園 短 期 大 学	
中 国	14名	ミネソタ州立大学機構秋田校	2名
アメリカ	14名	秋田大学医療技術短期大学部	1名
マレーシア	11名	秋田県立衛生看護短期大学	1名
インドネシア	9名	国立秋田工業高等専門学校	1名
台 湾	5名		
韓 国	2名		
フランス	2名		
ブラジル	2名		
スペイン	1名		
ベネズエラ	1名		
ミャンマー	1名		
メキシコ	1名		
不 明	17名		

(2) 対象者の属性

まず、被調査者の属性に関してみると、留学生の52.5%がアジアからの留学生で、アメリカおよびヨーロッパの出身者は22.5%、南米が5%、残り20%は不明である。所属学校別では、秋田大学が留学生では、71.3%、日本人学生では、93.9%で圧倒的に多い。留学生の在日期間は1年未満の者が一番多く、次に1~2年、3年以上となっている(表2)。

留学生、日本人学生とも学部生が多く、大学院生は、7名の留学生のみだった。これは、調査を実施した学生がほとんど学部1年生だったことと関係があるだろう。アンケートを頼みやすいのは同学年の学生だろうからである。

ミネソタ州立大学機構秋田校(以下MSUA)は、留学生と日本人学生の混住寮で、両者の活発な交流を図っているところである。ここから留学生21名の回答があった。残念ながら、日本人学生からの回答が少ない。この学校は他の大学に比べ、留学生の占める割合が高いので、他とは違う傾向があるのではないかと予測される。確かに、「友人を作るのに、外国人かそうでないかを意識したことがない」(アンケート項目I-6)という答えを出したのはMSUAの学生であった。しかし、結果としては、MSUAの学生の回答と他大学のそれとは相対的に顕著な差異はみられなかった。

(3) 交 流

「日本人の知り合いがいる」と答えた留学生は85%、一方「留学生の知り合いがない」と答えた日本人学生が約60%あった(表3-1)。また、10人以上いると答えた留学生が50%近くいるのに対して、日本人はせいぜい4人から1人くらいしか留学生の知人がいない(表3-2)。

これは、MSUA を除けば、留学生の割合が一番高い秋田大学でさえ、留学生の全学生数に対する割合がわずか2%に過ぎないという事実を考えれば、当然の数字なのかもしれない。

それでは、そのつき合いの程度はどうか。「あいさつをするだけ」「必要な時話をするだけ」などの「…だけ」という浅い消極的な関係が殆どなのが日本人学生の側で、浅い関係から、一緒に遊んだり、勉強したりといった親密な関係まで幅広く知人を持っているのは留学生の側である。しかし、どちらの方も「心を許して何でも話すことが出来る」友人があまりいないことがわかる(表3-3)。

表3 交流の実態

3-1 日本人大学生/留学生の知り合いの有無

	留 学 生	日本人学生
い る	68(85%)	160(40.5%)
い ない	12(15%)	235(59.5%)
合 計	80(100%)	395(100 %)

3-2 知り合いは何人いるか

	10人以上	9~5人	4~2人	1人だけ	無回答	合計
留 学 生	33(48.8%)	14(21.3%)	14(21.3%)	2(2.5%)	5	68
日本人学生	5(3.1%)	19(11.9%)	82(51.3%)	52(32.5%)	2	160

3-3 親密さの程度 [複数回答]

	留 学 生	日本人学生
① あいさつをするだけ	29(36.3%)	58(36.3%)
② 必要なときに話をするだけ	41(51.3%)	44(27.5%)
③ 授業で少し話をするだけ	34(42.5%)	49(29.4%)
④ アルバイト先で話すだけ	22(27.5%)	12(7.5%)
⑤ 一緒に勉強する	25(31.3%)	3(1.9%)
⑥ 時々学外で一緒に遊ぶ	25(31.3%)	13(8.1%)
⑦ よく学外で一緒に遊ぶ	9(11.3%)	2(1.3%)
⑧ 心を許して何でも話すことができる	9(11.3%)	6(3.8%)
⑨ そ の 他	5(6.3%)	0
合 計 (延べ人数)	199(249.1%)	187(115.8%)

知り合った方法として留学生も日本人学生も一番多いのは、「同じ授業をとっていた」、「同じ研究室なので」など、外的な条件、すなわち本人の意志とは全く無関係な条件である。しかし、顕著な差がみられるのは、自分の方から積極的に話しかけたとしている留学生が20%近くいるのに対して、日本人学生は殆どそのような個人的な努力がみられない(表3-4)。

「日本人学生と親しくなりたい」とする留学生は90%以上いるのに対して、日本人学生は、

なりたいたと答えた者が60%程度で、驚いたことに、「特にそう思わない」という者が3割近くもいる(表4-1, 4-2)。日本人と親しく交わりたいたという留学生と特にそう思わないという日本人学生との間に大きなズレがみられる。

3-4 知り合った方法 [複数回答]

	留 学 生	日本人学生
① 日本事情で知り合った	19(36.3%)	39(24.4%)
② 同じ授業(①を除く)をとっていた	37(46.3%)	39(24.4%)
③ アルバイト先で	22(27.5%)	3(1.9%)
④ サークルで、クラブで	10(12.5%)	10(6.3%)
⑤ 日本人学生の方から声をかけてきた	11(13.8%)	4(2.5%)
⑥ 友達になりたかったので、自分から積極的に声をかけた	15(18.8%)	8(5.0%)
⑦ 国際交流/親善(しんぜん)のパーティで	13(16.3%)	3(1.9%)
⑧ 同じ研究室なので	15(18.8%)	32(20.0%)
⑨ そ の 他	11(14.8%)	19(11.9%)
合 計 (延べ人数)	153(205.1%)	157(98.3%)

表4-1 日本人学生/留学生と親しくなりたいたか

	留 学 生	日本人学生
① とてものなりたいた	32(40.0%)	60(15.2%)
② なりたいた	42(52.5%)	176(44.6%)
③ 特にそう思わない	3(3.8%)	105(26.0%)
④ あまりなりたいたくない	1(13.0%)	0
⑤ 絶対なりたいたくない	0	0
⑥ そ の 他	1(13.3%)	0
無 回 答	1(13.3%)	50(12.7%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

表4-2 なぜそのように思うのか [記述]

- ・他の文化を知りたい、国際的になりたいた、話相手が欲しいなど(①, ②と答えた者)
- ・特に日本人と留学生を区別して友達になるのではない、外国人だからといって特に親しくなりたいたとは思わない(③と答えた日本人学生)

「両者は親しくなりたいたと思うか」の質問に対して、日本人の答えは、肯定、否定、わからないの三つの選択肢に分散している。つまり、あまり留学生との接触がないので本当の所はよくわからないということなのだろう。それに対して、留学生の方は、「親しくなりたいたとは思わない」という者がやや多い。留学生側はそれなりに努力して友人を獲得しているので、「やればできる」という感覚を持っているのかもしれない(表5-1)。

表5-1 「日本人学生と留学生は親しくなりにくい」という意見をどう思うか

	留 学 生	日本人学生
① 本当にそうだと思う	20(25.0%)	91(23.0%)
② そうは思わない	28(35.0%)	109(27.6%)
③ よくわからない	19(23.8%)	99(25.1%)
④ そ の 他	6(7.5%)	6(0.3%)
無 回 答	17(21.3%)	90(22.8%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

親しくなれない原因においては、それぞれの言い分の違いが表れている。まず、留学生の方は、①や⑤のような「言葉の壁」を第一にあげ、次に「出会うきっかけがない」と外的要因に求め(⑥)、そして「知り合いたいが何を話したらいいかわからない」などの漠然とした不安や遠慮をあげている(⑬⑭⑮)。また、ホンネとタエマエ、集団行動、酒の場でコミュニケーションをはかろうとすることなど、日本の社会に特有といわれる文化、習慣、思考方法になじめないことははっきりと表れている(⑬⑭⑯)。一方、日本人の方は日本語がコミュニケーションの障害になっているとは思っていない。これは当然といえば当然で、自分の言い表したい事柄を外国語で表現しきれないもどかしさは、外国人本人にしか感じられないのである。日本人学生があげた原因は、何と言っても留学生の数が少なく、知り合う場がないという外的条件である(⑥⑯)。そして「恥ずかしくて話しかけられない」(⑬)が、一端出会うと今度は「何を話したらいいかわからず」、「緊張してしまい」、「本当の気持ちが出しにくい」と感じている(⑩⑪⑫⑭⑮)。他方、「日本人はグループで行動するので入り込みにくい」(⑬)あるいは「ホンネとタエマエがあって本心がわかりにくい」(⑬)のであろうと、留学生の立場になって推測してみたりするのである。一方、留学生の5人に1人近くが「留学生同志の方が気が合う」(⑦ 16.3%)、「日本人学生は欧米の留学生の方が好きだから」(⑩ 17.5%)と感じていることも見逃してはならない(表5-2)。

そのような原因を克服して「親しくなるためにはどうしたらよいか」という問いに対して、まず今より留学生数が増え、知り合うきっかけが増えれば、自然に解消されるだろうという楽観的な答えがあり、そして、留学生も日本人学生も、日本人の方がもっと積極的に努力すべきだという点で一致している(表6)。

留学する機会があれば何処を希望するか尋ねた項目では、留学生では日本にもう一度来たいとする者が最も多く、胸をなでおろす感がある。一方、日本人学生は英語圏の国を挙げる者が多かった(表7-1, 7-2)。

以上、交流の面をまとめて考察すると以下ようになる。全体的に日本人学生よりも、留学生の方が積極的に親しくコミュニケーションをしたいと考え、努力しているのに対して、日本人学生はそれほど切実に感じていない。たとえ感じていても、どう行動を起こしていいのかわからないまま、もっと留学生の数が増えることを待っている。また、日本の様々な文化や行動様式が留学生にはわからず、グループ行動にもついていけないのだらうと推測し、自分たちも努力すべきだとは思っている。留学生も日本人学生もお互いに遠慮しあっている様子もうかがえる。新しい人間関係を構築していくことは、留学生にとっても、日本人にとってもそれほど容易なことではない。しかし、迎え入れるホスト側の日本人の方が積極的に働きかけることに

表5-2 親しくなれない原因 [複数回答]

	留 学 生	日本人学生
① 留学生の日本語に問題がある	38 (47.5%)	38
② わたし/留学生の留学の目的は友人を作ることではない	2	16
③ 留学生はまじめで、日本人学生は遊んでばかりいる	9	42 (10.6%)
④ 日本人/留学生は留/日本人学生に興味(きょうみ)がない	11	11
⑤ 勉強が忙(いそが)しくて、日本人とつき合う時間がない	8	15
⑥ 知り合うきっかけがない	22 (27.5%)	220 (55.7%)
⑦ 留学生/日本人同志の方が気が合う	13 (16.3%)	45 (11.4%)
⑧ 日本人学生/留学生は子供っぽくてつまらない	3	4
⑨ 日本人学生/留学生はわからないことをきちんと説明してくれない	9	18
⑩ 日本人/留学生に率直に言っでは失礼になるかも知れないという気がして、本当の気持ちを出しにくい	6	47 (11.9%)
⑪ 日本人学生は欧米の留学生の方が好きだから	14 (17.5%)	14
⑫ 日本人学生はグループで行動するが留学生はそれが好きではないから	4	84 (21.3%)
⑬ 日本人学生がタテマエとホンネを区別するから本当の気持ちがよくわからない	14 (17.5%)	52 (13.2%)
⑭ 話題がちがいすぎて話が合わない	10	15
⑮ 自分が日本の文化や習慣(しゅうかん)をよく知らない	7	73 (18.5%)
⑯ 特に日本人/留学生と親しくしなくても、同じ国の学生と話をしていれば充分楽しい	4	51 (12.9%)
⑰ 知り合いたいとは思いますが、恥ずかしくて話しかけられない	14 (17.5%)	84 (21.3%)
⑱ 日本人学生はお金を使って遊ぶが、自分/留学生はお金が充分ではないので、いっしょに遊べない	8	16
⑲ 自分の国のことをあまり知らないので、質問されると困る	4	21
⑳ 新しい友人関係をつくるのが面倒だから	3	25
㉑ 価値観やセンスがちがいすぎるから	7	36
㉒ 何となく緊張(きんちょう)してしまうから	7	89 (22.5%)
㉓ 何の話をしたらいいかわからない	16 (20.0%)	111 (28.1%)
㉔ 日本人学生/留学生はいつもグループでいるので、入りにくい感じがする	19 (23.8%)	33
㉕ 留学生の日本語の単語が少ないので、自分の気持ちを十分に伝えることができない	16 (20.0%)	36
㉖ 私は日本人/留学生に対して、何となく不安と遠慮がある	13 (16.3%)	41 (10.4%)
㉗ 「日本人の心は外国人にはわからない」と日本人が思っている	6	3
㉘ 日本人/留学生は私の国の文化などに関心がない	4	8
㉙ 留学生は日本人や日本全体に不満がある	2	8
㉚ 日本人学生はコンパをよくするが、私/留学生はあまり/全然好きではない	12 (15.0%)	18
㉛ 周りに留学生があまりいない(日本人のみ)		291 (73.7%)
延べ合計	305	1,565

(%は10%を越える場合のみ記載)

表6 留学生と日本人学生が親しくなるための方法 [複数回答]

	留 学 生	日本人学生
① 知り合うきっかけをもっと作る	19(23.8%)	116(29.4%)
② 留学生がもっと積極的に努力するべきだ	31(38.8%)	64(16.2%)
③ 日本人学生がもっと積極的に努力するべきだ	36(45.0%)	122(30.9%)
④ 日本人全体が変わらなければだめだ	11(13.8%)	40(10.1%)
⑤ 日本人学生はもっと大人として自覚し、目的を持つべきだ	8(10.0%)	29(7.3%)
⑥ 留学生の数がもっと増えれば、同じようにつき合うようになる	18(22.5%)	55(13.9%)
⑦ そ の 他	0	12(3.0%)
延べ合計	123(153.9%)	438(110.8%)

表7-1 留学したい国または地域 (日本も含む)

1位に挙げられた国/地域名とそれを1位に挙げた者の数			
留 学 生		日本人学生	
国 名	人数	国 名	人数
日 本	14	アメリカ	46
アメリカ	9	イギリス	25
オーストラリア	4	オーストラリア	18
イギリス	2	ヨーロッパ	17
アイルランド	2		

表7-2 その国/地域を選んだ理由 [記述]

国/地域	理 由
アメリカ, イギリス, オーストラリア	英語圏だから
ヨーロッパ, 英語圏	先進国, 暮らしやすい, 自分の専攻分野が発達している, すぐに思い付く
日 本	自分の専攻分野が発達している, 自分の文化に似ている

よって、いわばマイノリティである留学生の社会適応がより円滑にすすむことは明らかである。

(4) 価値観

価値観の比較では、留学生と日本人学生との違いが交流よりもっと顕著に明らかになった。今の生活に満足しているかを問うたところ、留学生は今のままでよいとする者と、変えたいという者は大体3割ずつであったが、日本人学生は、変えたいという者が全体の半数いた(表8-1)。これは、現在の自分の生き方に対する評価にも現れ、「自分の生き方に自信がもてる」、「毎日の生活が充実している」とした留学生が70%以上なのに対して、日本人学生は、「充実している」と答える者が多いものの、「目的がわからない、今何をすべきなのかわからない」とい

表8-1 現在の生活への満足度

	留 学 生	日本人学生
① 守りたい	26(32.5%)	110(27.8%)
② 変えたい	30(37.5%)	185(46.8%)
③ そ の 他	6(7.5%)	25(6.3%)
無 回 答	18(22.5%)	75(18.9%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

表8-2 現在の生き方に対する評価

	留 学 生	日本人学生
① 自分の生き方に自信がもてる	33(41.3%)	27(6.8%)
② 毎日の生活が充実している	23(28.8%)	105(26.6%)
③ 毎日の生活にたいくつしている	1(1.3%)	47(11.9%)
④ 毎日目的もなく惰性で暮らしている	5(7.1%)	61(17.7%)
⑤ 目的をみつけないが、今何をすべきなのかよくわからない	7(8.8%)	81(20.5%)
⑥ そ の 他	1(1.3%)	24(6.1%)
無 回 答	10(12.5%)	50(12.7%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

う現在の生き方に満足していないことがはっきりでている (表8-2)。

さらに、今大切なものを尋ね、順位をつけさせた項目では、留学生は、1位から3位までのどの順位をみても上位の項目に、家族と勉強・研究が入っている。一方、日本人学生はこれとは全く対照的に、上位には趣味・教養、友人を選んでいる。また、1位には入っていないが、お金や財産を2位や3位に挙げる者が留学生に比べると多いことがわかる (表9)。

ところで、これをもって一概に「留学生はまじめ、日本人学生は享樂的」と安易に決めつけることは早計であろう。なぜならば、留学生はそもそも留学という目的の限られた状況に現在身を置いているのであり、第一の目標は勉強研究を修めることなのであって、日本人学生より、より目的意識が高いのは当然だからである。とはいえ、仮に、アメリカの大学などで同様の調査をしたとしたら、日本人留学生がこれと同じ答えをしただろうか。勉強が上位にくることはあるかもしれないが、友人よりも家族が上にくることはないであろう。そして、留学中だからこそお金が大切という者も少なくないかもしれない。まさに価値観の相違なのである。

さて、「他人からどのような人にみられたいか」の問いに対しても、両者の答え方は対照的だ。留学生は「平凡でもいいから正直な人」と答え、日本人は「やさしく頼りになる人」にみられたいという(表10-1)。また、共感を持つ生き方に対しては、留学生は自己の向上や世界への貢献を第一にあげ、日本人は「自由に人生を楽しみ、自己の向上を目指す」(表10-2)。

非営利的な活動に対する態度においても、価値観の差が如実に表れている。勉強や研究で忙しいはずの留学生の方が、今ぜひ、あるいは将来なら、と積極的に参加したいと述べ、(46.3%)かたや、人生の目的を模索しているはずの日本人学生は「関心はあるが参加したくない」もし

表9 大切なもの

1位に挙げられた項目とそれを1位に挙げた者の数			
項目	留学生	項目	日本人学生
家族	14(17.5%)	友人	74(18.7%)
宗教	11(13.8%)	趣味・教養	44(11.1%)
研究・勉強	10(12.5%)	健康	35(8.9%)
健康	7(8.8%)	恋人	21(5.3%)
友人	5(6.3%)	勉強・研究	21(5.3%)
仕事	2(2.5%)		
2位			
研究・勉強	16	趣味・教養	44
家族	11	友人	33
友人	4	健康	24
健康	2	家族	21
宗教	2	お金・財産	19
		恋人	11
3位			
勉強・研究	11	趣味・教養	33
友人	5	友人	27
家族	5	勉強・研究	26
健康	3	お金・財産	21
趣味・教養	3	家族	19
恋人	3	健康	18
お金	3	恋人	16

その他として、自分の夢、余暇、自分の気持ち、などを上げる日本人学生がいた。

くは「関心はあるが自分にはできないと思う」(あわせて41.8%) (表11)。

日本に留学した最大の理由を留学生にきくと、最も多かったのが「日本の研究が一番進んでいる」で、次は「日本の文化や歴史に興味があった」であった。もっと実利的な理由、例えば、③や④があったのではないかと予想したが、比較的低かった。留学生も本音を言わないのか、本当に純粋な動機だったのか。しかし、価値観を問う他の質問の答えをみてもやはり後者と考えるべきであろう(表12)。

以上、価値観の比較をまとめると、先にも述べたように、留学生と日本人の学生の価値観には大きなギャップがある。日本人学生は、現在の生き方、生活に満足しておらず、何か目的をみつけないと思っているにもかかわらず、そのために積極的に、例えばNGOに参加してみるというような方策もとっていない。今一番大切なのは趣味と友人であり、そのためにはお金も大切だという。一方留学生は、世界や自己の向上を希求し、自らも経済的にそれほど恵まれた状

表10-1 周囲からどのように見られたいか

	留 学 生	日本人学生
① 正直な人	20(25.0%)	38(9.6%)
② 信念のある人	9(11.3%)	41(10.4%)
③ やさしい人	9(11.3%)	53(13.4%)
④ 個性的な人	6(7.5%)	36(9.1%)
⑤ 有能な人	8(10.0%)	37(9.4%)
⑥ おもしろい人	3(3.8%)	24(6.1%)
⑦ 頼りになる人	7(8.8%)	53(13.4%)
⑧ 平凡な人	12(15.0%)	22(5.6%)
⑨ そ の 他	1(1.3%)	14(3.5%)
無 回 答	5(6.3%)	77(19.5%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

表10-2 共感を持つ生き方

	留 学 生	日本人学生
① 平凡に地道に生きる	9(11.3%)	34(8.6%)
② 自分の向上をめざす	19(23.8%)	112(28.4%)
③ 自由に人生を楽しむ	8(10.0%)	115(29.1%)
④ 成行きにまかせる	2(2.5%)	26(6.6%)
⑤ 世の中を良くするようにがんばる	12(15.0%)	26(6.6%)
⑥ 世の中に背を向けても自分なりに生きる	6(7.5%)	12(3.0%)
⑦ そ の 他	0	11(2.8%)
無 回 答	24(30.0%)	59(14.9%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

表11 非営利的活動に対する関心

	留 学 生	日本人学生
① 私もぜひ参加してみたい	25(31.3%)	30(7.6%)
② 関心はあるが参加はしたくない	19(23.8%)	100(25.3%)
③ 関心はあるが自分にはできないと思う	5(6.3%)	65(16.5%)
④ 関心はあるが、将来ならやってみたい	12(15.0%)	56(14.2%)
⑤ 関心も参加する気もない	3(3.8%)	43(10.9%)
⑥ そ の 他	1(1.3%)	9(2.3%)
無 回 答	15(18.8%)	92(23.3%)
合 計	80(100 %)	395(100 %)

表12 日本に留学した最大の理由（留学生のみ）

① 本当は他の国に行きたかったが、奨学金がもらえるので	9(11.3%)
② 私の専門では日本の研究が一番進んでいるので	25(31.3%)
③ 国に帰って給料のよい仕事を手に入れるため	2(2.5%)
④ 日本語ができると有利だから	9(11.3%)
⑤ 日本の文化や歴史に関心があったから	24(30.0%)
⑥ とにかく外国へ留学したかったから	1(1.3%)
⑦ 先生や家族が強くすすめたから	4(5.0%)
⑧ そ の 他	3(3.8%)
無 回 答	3(3.8%)
合 計	80(100 %)

況にあるとは言い難いにもかかわらず、積極的にボランティアとして人のために役に立ちたいと思っている。留学の動機は純粋に学問を修めたいというもので、ここからも彼らの目的意識の強さがわかる。さらに、これほどの価値観のずれがあるにもかかわらず、交流の項目「親しくなれない原因」(表5-2)の④にある「価値観やセンスがちがいきすぎるから」を挙げている学生が少ないことを考えあわせると、価値観の差が、留学生と日本人学生との交流阻害の原因になっていると意識されていない点も注目すべきであろう。

3. ま と め

上記にみたように、これほど価値観の異なる留学生と日本人学生が、共通の話題をみつけ、心からの信頼感を持った親しい関係になれるのだろうか。本研究と同様の他の研究²⁾においては、かなり厳しい現実が報告されている。しかし、ホスト文化と留学生との両側からの相互作用によって、今までの日本にはなかった新しい状況が生まれてくる可能性は十分にある。筆者は、新しい異文化交流の場作りとして一つの試みをしている。日本事情I・IIを留学生と日本人学生の交流の場として位置付け、単に教師が日本の事柄を一方的に講義するのではなく、学生間のインターアクションから留学生も日本人学生も自分の文化を客観的に見る眼を養うことをねらいとしている。このような試みも大学における一つの可能性だと思う²⁾。

今後は、文化を超えたコミュニケーションがますます必要になる。コミュニケーションの能力は一朝一夕にできるものではない。幼い時からどんな人に対しても積極的な人間関係構築ができるように日本人の子供を訓練することも重要になるであろう。それは異文化間教育とか多文化間教育、あるいは異文化理解教育と呼ばれる分野である。こういう教育が幼児期から高等教育にいたるまで連続的に行われるべきである。

たとえ、留学生が優秀な成績で学問を修めても、留学先の人々との楽しい思い出が一つもなく帰ることになったら、その留学は成功とはいえないであろう。留学生の日本に対するイメージは、研究の成果や勉強の辛さ、楽しさだけで形作られるのではなく、指導教官や友人、大家さんやホームステイ先の家族といった、直接接した個人との交流によって大きく左右されるのだということを忘れてはならない。

国際交流と生活価値観調査 調査用紙
QUESTIONNAIRE (留学生用)

私たちは、「日本事情」という授業の一部として、留学生と日本人学生との交流の実態および生活価値観の比較の調査をしています。一般的な通念ではなく、あなた個人の考えを率直にお聞かせください。

WE ARE DOING RESEARCH ON HOW INTERNATIONAL STUDENTS AND JAPANESE STUDENTS ARE INTERACTING IN THE AKITA AREA. WE APPRECIATE YOUR COOPERATION.

<注>質問の後の；[1] は答えは一つだけ選びまる(○)をする，[複数] は答えをいくつ選んでもよい，という意味です。A “[1]” AFTER THE QUESTION MEANS YOU ARE REQUESTED TO CHOOSE ONE ANSWER, a “[複数]” MEANS YOU CAN CHOOSE AS MANY AS YOU WISH. CIRCLE CHOICE(S).

ご自身について	国籍 NATIONALITY : 大学名 NAME OF UNIVERSITY 学部と学年 : COLLEGE/MAJOR/YEAR	性別 SEX : 男性 MALE ・ 女性 FEMALE 来日 : FIRST CAME TO JAPAN
	年	日

I. 交流 INTERACTION

1. 日本人大学生の知り合いがいますか。DO YOU HAVE AQUAINTANCE(S) AMONG JAPANESE STUDENTS? [1]

- ①はい YES → 2以下の質問へ MOVE ON TO QUESTION 2
 ②いいえ NO → 5以下の質問へ MOVE ON TO QUESTION 5

次の2～4は上のしつもんで 「①はい」と答えた人だけ答えてください

2. 何人いますか。HOW MANY JAPANESE FRIENDS DO YOU HAVE? [1]

- (1) 10人以上 (2) 9～5人 (3) 4～2人 (4) 1人だけ

3. どういう知り合いですか。WHAT KIND OF RELATIONSHIPS DO YOU HAVE WITH THOSE FRIENDS? [複数]

- ①あいさつをするだけ JUST GREETINGS
 ②必要なときに話をするだけ TALK ONLY WHEN NECESSARY
 ③授業で少し話をするだけ TALK ONLY IN CLASS
 ④アルバイト先で話すだけ TALK AT PART-TIME WORK
 ⑤一緒に勉強する STUDY TOGETHER
 ⑥時々学外で一緒に遊ぶ OCCASIONALLY SPEND TIME TOGETHER OUTSIDE SCHOOL
 ⑦よく学外で一緒に遊ぶ FREQUENTLY SPEND TIME TOGETHER OUTSIDE SCHOOL
 ⑧心を許して何でも話すことができる TALK ABOUT PERSONAL MATTERS QUITE INTIMATELY
 ⑨その他 OTHERS (どんな人? WHAT KIND OF FRIENDSHIP? DESCRIBE.)

4. どうやって知り合いましたか。HOW DID YOU BECOME FRIENDS WITH THEM? [複数]

- ①日本事情で知り合った IN THE NIHON-JIJO CLASS
 ②同じ授業(①を除く)をとっていた IN ONE OF THE OTHER CLASSES ON CAMPUS
 ③アルバイト先で AT PART-TIME WORK
 ④サークル、クラブで IN CLUB ACTIVITIES
 ⑤日本人学生の方から声をかけてきた JAPANESE STUDENTS TALKED TO ME FIRST
 ⑥友達になりたかったので、自分から積極的に声をかけた I TALKED TO THEM/HER/HIM BECAUSE I WANTED TO MAKE FRIENDS.
 ⑦国際交流/親善(しんぜん)のパーティで AT INTERNATIONAL PARTIES
 ⑧同じ研究室なので SHARING THE SAME RESEARCH LAB
 ⑨その他 OTHER ()

5. 日本人の大学生と親しく(仲良く)になりたいと思いますか。DO YOU WANT TO MAKE FRIENDS WITH JAPANESE STUDENTS? [1]

- ①とてもになりたい YES, VERY MUCH
 ②なりたい YES I DO
 ③特にそう思わない NO I DON'T FEEL SO STRONGLY
 ④あまりなりたくない NO I DON'T WANT TO
 ⑤絶対なりたくない NO I NEVER WANT TO DO SO

6. なぜそのように思うのですか。WHY DO YOU FEEL THAT WAY? DESCRIBE. [自由に書いてください]

FULLY IN JAPANESE BECAUSE MY JAPANESE VOCABULARY IS NOT ENOUGH

- ②⑥ 私は日本人に対して、何となく不安（ふあん）と遠慮（えんりよ）がある I ALWAYS FEEL UNEASINESS AND CONSTRAINT TOWARD JAPANESE
- ②⑦ 「日本人の心は外国人にはわからない」と日本人が思っている JAPANESE THINK THAT FOREIGNERS CANNOT UNDERSTAND JAPANESE MIND
- ②⑧ 日本人は私の国の文化などに関心がない JAPANESE HAVE NO INTEREST IN MY CULTURE
- ②⑨ 日本人や日本全体に不満（ふまん）がある I HAVE COMPLAINTS AGAINST THE WHOLE OF JAPAN AND JAPANESE
- ②⑩ 日本人学生はコンパ（お酒をよく飲むパーティ）をよくするが、私はあまり／全然好きではない JAPANESE STUDENTS HAVE DRINKING PARTIES QUITE OFTEN, BUT I DO NOT LIKE THE CUSTOMS

9. それでは、どのようにすれば、留学生と日本人学生はもっと親しくなれるとおもいますか。HOW, THEN, DO YOU THINK INTERNATIONAL AND JAPANESE STUDENTS CAN ESTABLISH GOOD RELATIONSHIPS?

- ① 知り合うきっかけをもっと作る（例えば？）
CREATE MORE OPPORTUNITIES FOR BOTH TO MEET (HOW?)
- ② 留学生がもっと積極的（せっきよくてきに）に日本人とともだちになろうと努力（どりよく）するべきだ IT IS THE INTERNATIONAL STUDENTS WHO SHOULD TRY TO BECOME FRIENDS WITH JAPANESE
- ③ 日本人学生がもっと積極的に留学生と友達になろうと努力するべきだ IT IS THE JAPANESE STUDENTS WHO SHOULD TRY TO BECOME FRIENDS WITH INTERNATIONAL STUDENTS
- ④ 日本人全体が変わらなければだめだ WHOLE JAPANESE SHOULD CHANGE
- ⑤ 日本人学生はもっと大人として自覚（じかく）し、目的（もくてき）を持つべきだ JAPANESE STUDENTS SHOULD HAVE AWARENESS AS ADULTS AND SHOULD HAVE CLEAR PURPOSES IN LIFE
- ⑥ 留学生の数がもっと増えれば、日本人も留学生も全く同じようにつき合うようになる IT IS ONLY WHEN THE NUMBER OF INTERNATIONAL STUDENTS BECOMES EQUAL TO THAT OF JAPANESE THAT THEY CAN HAVE FULL FRIENDSHIP
- ⑦ その他 OTHER ()

10. もう一度留学できるとしたら、行きたい国または地域（ちいき）はどこですか（日本も含む）。行きたい順に書いてください。WHICH COUNTRIES INCLUDING JAPAN WOULD YOU LIKE TO GO TO, IF YOU ARE GIVEN ANOTHER CHANCE TO STUDY ABROAD? PUT IN ORDER.

1 2 3 4

11. その国を選（えら）んだ理由は何ですか。WHY? GIVE REASON(S)

II. 価値観 SENSE OF VALUE

1. あなたは、今の自分の生活をあまり変えないで守りたい、と思いますか。それともできれば変えたいと思いますか。[1] DO YOU WANT TO CHANGE YOUR PRESENT LIFE?

- ① 守りたい NO ② 変えたい YES ③ その他 OTHER ()

2. 現在あなたにとって大切なものは何ですか。大切なもの3つに順番をつけてください（1, 2, ...）
WHAT IS MOST IMPORTANT IN YOUR LIFE? CHOOSE 3 AND PUT THEM IN ORDER.

- ① 仕事 WORK ② 研究 RESEARCH ③ 勉強 STUDY ④ 趣味・教養 HOBBY
⑤ お金・財産 MONEY ⑥ 名誉・地位 HONOR, FAME ⑦ 友人 FRIENDS
⑧ 恋人 BOY FRIEND/GIRL FRIEND ⑨ 家族 FAMILY ⑩ 健康 HEALTH ⑪ 宗教 RELIGION
⑫ その他 OTHER ()

3. あなたは、まわりの人から、どんなふうに見られたいと思いますか。[1] WHAT KIND OF PERSON WOULD YOU LIKE TO BE CONSIDERED BY OTHERS? CHOOSE ONE.

- ① 正直な人 HONEST ② 信念のある人 WITH FIRM BELIEF ③ やさしい人 CONSIDERATE
④ 個性的な人 WITH STRONG PERSONALITY ⑤ 有能な人 ABLE AND TALENTED
⑥ おもしろい人 INTERESTING ⑦ 頼りになる人 DEPENDABLE ⑧ 平凡な人 ORDINARY
⑨ その他 OTHER ()

4. あなたはどんな生き方に共感を持ちますか。ひとつだけ選びなさい。[1] WHAT KIND OF LIFE DO YOU WANT TO HAVE? CHOOSE ONE.

- ①平凡に地道に生きる ORDINARY, STEADY LIFE
 ②自分の向上をめざす CHALLENGING ③自由に人生を楽しむ FREE, ENJOYABLE
 ④成行きにまかせる AS TIME GOES BY
 ⑤世の中を良くするようがんばる TRY TO IMPROVE THE WORLD
 ⑥世の中に背を向けても自分なりに生きる PURSUIT MY OWN WAY EVEN IF IT IS AGAINST THE TIMES
 ⑦その他 OTHER ()

5. 現在の自分について一番よくあてはまる事を一つだけ選んでください。[1] HOW DO YOU FEEL ABOUT YOUR PRESENT LIFE?

- ①自分の生き方に自身がもてる I HAVE STRONG CONFIDENCE IN WHAT I'M DOING NOW
 ②毎日の生活が充実している I AM LIVING A FULL LIFE
 ③毎日の生活にたいくつしている I AM BORED EVERYDAY
 ④毎日目的もなく惰性で暮らしている I AM SPENDING EVERYDAY WITHOUT ANY FULFILLMENT
 ⑤目的をみつけないが、今何をすべきなのかよくわからない I WOULD LIKE TO FIND A PURPOSE OF LIFE, BUT I DO NOT KNOW WHAT TO DO RIGHT NOW
 ⑥その他 OTHER ()

6. NGO (非政府間機構) や国連ボランティア (UN-VOLUNTEER) などの非営利的 (NON-PROFIT) な活動に興味がありますか。ARE YOU INTERESTED IN NON-PROFIT ACTIVITIES AS AN NGO OR UNITED NATIONS VOLUNTEER?

- ①私もし参加してみたい YES, I DO WANT TO PARTICIPATE
 ②関心はあるが参加はしたくない YES, BUT I HAVE NO INTENTION OF PARTICIPATING
 ③関心はあるが自分にはできないと思う YES, BUT I DON'T THINK I AM CAPABLE OF DOING SUCH THINGS
 ④関心はあるが、今の自分は勉強や研究をしてよい職業につくことが一番重要であるから、そういう活動をするひまがない。将来ならやってみたい YES, BUT SINCE MY FIRST PRIORITY RIGHT NOW IS TO FINISH MY EDUCATION AND FIND A JOB, I WOULD LIKE TO TRY TO PARTICIPATE IN THE FUTURE
 ⑤関心も参加する気もない NO I AM NOT INTERESTED
 ⑥その他 OTHER ()

7. あなたが日本に留学した最大の理由はなんですか。[1] WHAT IS THE MAIN REASON OF YOUR STUDYING IN JAPAN? CHOOSE ONE.

- ①本当は他の国に行きたかったが、日本のに来る奨学金がもらえたので
 MY FIRST INTENTION WAS NOT TO COME TO JAPAN BUT I WAS GIVEN A SCHOLARSHIP TO COME HERE.
 ②私の専門では日本の研究が一番進んでいるので JAPAN IS MOST ADVANCED IN MY FIELD OF RESEARCH
 ③国に帰って給料のよい仕事を手に入れるため TO FIND A BETTER JOB IN MY COUNTRY
 ④日本語ができると有利だから JAPANESE LANGUAGE PROFICIENCY IS AN ADVANTAGE IN MY COUNTRY
 ⑤日本の文化や歴史に関心があったから I AM INTERESTED IN JAPANESE CULTURE AN HISTORY
 ⑥どこの国でもいいからとにかく外国へ留学したかったから I WANTED TO GET OUT MY COUNTRY IN ANY WAY POSSIBLE
 ⑦先生や家族が強くすすめたから MY SUPERVISORS AND FAMILY RECOMMENDED STRONGLY
 ⑧その他 OTHER ()

ご協力ありがとうございました。THANK YOU FOR YOUR COOPERATION!

註

- 1) 横田 (1991), および萩原 (1991)参照。滞日年数が長くなるほど、日本や日本人に対する不信感が高くなるという研究もある (岩男・萩原:1988)。
- 2) 宮本 (1995) 参照。表 3-4「知り合った方法」の①「日本事情で知り合った」という者が、留学生で 36.3%、日本人学生で 24.4%もいる事実は、このような試みの有効性の一つの証左である。

参 考 文 献

- 岩男寿美子・萩原 滋 (1987)『留学生が見た日本——10年目の魅力と批判』サイマル出版会
- 岩男寿美子・萩原 滋 (1988)『日本で学ぶ留学生——社会心理学的分析』勁草書房
- 馬越 徹(1991)「異文化接触と留学生教育」『異文化間教育』5 異文化間教育学会編 アカデミア出版 pp.21-34
- 江淵一公 (1991)「在日留学生と異文化間教育——研究の視覚と課題」(同上) pp.4-20
- 大橋敏子 (1991)「留学生オリエンテーションの課題」(同上) pp.49-65
- 倉地暁美 (1988)「学部私費留学生の実態——86年度面接調査の概要と留学生教育の課題」『立命館国際研究』1号 pp.170-188
- 倉地暁美 (1991)「異文化間コミュニケーション能力開発のために——ジャーナル・アプローチの創出とその意味」『異文化間教育』5 異文化間教育学会編 アカデミア出版 pp.66-80
- 田中共子 (1991)「在日留学生の文化的適応とソーシャル・スキル」(同上) pp.98-110
- 萩原 滋 (1991)「日本留学に対する在日および帰国留学生の評価——1975年および1985年の調査結果から」(同上) pp.35-48
- 宮本律子 (1995)「“日本事情”をどう教えるか——秋田大学における実践報告(1)」『秋田大学教育学部工学研究報告』第17号 pp.1-11
- 横田雅弘 (1991)「留学生と日本人学生の親密化に関する研究」『異文化間教育』5 異文化間教育学会編 アカデミア出版 pp.81-97
- Hall, E.T. 1976, *Beyond Culture*, New York: Anchor Press. (岩田慶治・谷泰訳 1979『文化を越えて』TBSブリタニカ)